

大阪府外国人患者受入れ拠点・地域拠点医療機関連絡調整会議(R7.6.24) グループディスカッション

資料2-1

	① 地域の医療機関間で連携を行う上での課題	② ①の課題を解決するために実施すべき取組
北 部 (豊能・三島・北河内)	・医療機関のリストの重要性	・担当者レベルまで記載していれば使いやすい。 ・ウォークインの可否まで記載があれば、連絡しても受け入れられないということが減る。
中 部 ① (大阪市)	①院内の問題 ・職員の理解度が低い。外国人対応にかかる院内周知が充分でない。 ・未収金対応などもあり、救急患者の対応が難しい。 ・担当部署が分かれている病院がある一方、そうでない病院がある。 ・マニュアルやテンプレートの整理がなされていない。 ②連携の問題 ・情報共有の仕組みが整っていない。病院とクリニックの間で情報共有ができていない。	①院内の取組 ・医療用多言語通訳機を活用している。 ・未収金対策の補償サービスに加入している。 ・各部署で外国人対応し、その内容を院内フィードバックすることが重要。 ②連携の取組 ・患者を紹介するときに担当者名がわかるリストがあると調整しやすい。 ・薬局についても外国語対応の情報がほしい。
中 部 ② (大阪市・中河内)	①未収金の課題 ②言語(正確な情報伝達)の課題 ③連携のあり方に係る課題 ・それぞれの医療機関の外国人患者受入れ体制が不明瞭 ・診察時間や対応言語、診療報酬の設定などの情報が不足しており、紹介先の医療機関を探すにあたり支障となっている。 ④その他の課題 ・診療報酬を1点いくらにするか手探りで対応しており、国から明確な指針が示してほしい。 ・院内一丸となって、外国人患者の対応体制を構築するにあたり、外国人への苦手意識をどう克服していくか。	①未収金の取組 ・事前に概算額を説明する。その上でデポジット(預かり金)をいただく。 ・海外旅行保険の加入状況を確認する。 ・事前の情報収集が重要。 ②言語(正確な情報伝達)の取組 ・それぞれの医療機関で、状況に合わせた翻訳ツールを用いているが、それらを最大限、正確な情報伝達のために、どうしたら有効活用できるかを整理する。 ・口頭による通訳の体制だけでなく、書面(英文診断書など)による情報伝達も課題であり、翻訳にはChatGPTなど様々なツールを用いることが有効。 ③連携のあり方に係る課題 ・医療機関の情報を迅速に検索できるような仕組みがあるとよい。 ・同じ地域の中で気軽に相談できる場・機会が必要。
南 部 (泉州・堺市・南河内)	・自院が受け入れた外国人患者の紹介先が見つかりにくい。	・外国人患者を紹介できる医療機関の情報を地域で共有する。 ・受入れを断られた場合でも、外国人患者対応マニュアルの活用や府の通訳サービスなどを紹介しながら、受入可能な医療機関を広げていく。 ・担当者間の意見交換や研修により、外国人患者に対する苦手意識を克服すれば、より地域で連携できると考える。 ・外国人患者対応の担当部署がある施設もあれば、担当部署がない施設もあり、こうした医療機関間で濃淡がある状態を解消していくことで、地域の医療機関間のつながりが強くなると考える。